

原・浮島をめぐる

白隠宗の総本山。開創は鎌倉時代弘安年中、1280年頃。
江戸時代に名僧・白隠慧鶴が住職を務めた寺として知られています。
白隠禅師が住職となったのは享保2年(1717)、その後松蔭寺には修行者はもちろん、各界の多くの人々が訪れたことが知られています。(この文章はダミーです)

沼津の特産品

特産品についての文章が入ります。この文章はダミーです。特産品について入ります。

左から、静岡茶、野菜、あしたか牛、静岡の地酒



江戸時代に名僧・白隠慧鶴が住職を務めた寺として知られています。(この文章はダミーです)

原・浮島 ぐるりMAP あ-A 松蔭寺と白隠さん

白隠宗の総本山。開創は鎌倉時代弘安年中、1280年頃。江戸時代に名僧・白隠慧鶴が住職を務めた寺として知られています。白隠禅師が住職となったのは享保2年(1717)、その後松蔭寺には修行者はもちろん、各界の多くの人々が訪れたことが知られています。白隠禅師が岡山城主池田侯より贈られた備前焼のすり鉢を台風で折れた松の枝にかぶせたという「すり鉢の松」がありましたが、枯れ死したことから伐採されました。山門は木造、石瓦葺き、切妻造りの平屋建て。つごう108枚の石瓦で葺かれた屋根は白隠禅師の考案と言われ、この地方では類を見ないものとなっています。五百年に一人と言われるほどの高僧・白隠禅師。「駿河には過ぎたるものが二つあり、富士のお山に原の白隠」とうたわれるほどの名僧です。原宿の長沢家に生まれ、15歳で出家し諸国を行脚。修行を重ねて原宿に戻ると、松蔭寺を拠点に当時、禅の神髄を見失っていた臨済宗を復興させ、中興の祖と呼ばれました。臨済宗の全十四派は、今でも全ての派が白隠禅師の禅と教えを伝えています。禅師は禅画の作者としても世界的に著名で、個性的な達磨をモチーフにした禅画は特に広く知られています。



ここにキャプションが入ります。



ここにキャプションが入ります。



ここにキャプションが入ります。



ここにキャプションが入ります。



ここにキャプションが入ります。

北条早雲が築城した旗揚げの城。

原・浮島 ぐるりMAP あ-A 興国寺城跡

興国寺城は伊勢新九郎長氏(後の北条早雲)が妹婿・今川義忠の戦死後、今川家の家督争いを鎮めた功績により、東駿河に領地を得て築城したものです。長氏は1419年に伊豆へ攻め入り、さらに相模を攻略し小田原北条氏の基礎をつくった早雲旗揚げの城です。愛鷹山を後に、前に深い堀を持った城は駿河の国を守る要の城であったと言われます。最後の城主・天野康景は1607年、天領の百姓を斬殺した家臣引き渡しを拒んだため城は破却、廃城となりました。



ここにキャプションが入ります。



ここにキャプションが入ります。



ここにキャプションが入ります。

北条早雲が築城した旗揚げの城。(この文章はダミーです)

原・浮島 ぐるりMAP あ-A 大泉寺

曹洞宗。東井出でひときわ縁が深い古刹。ここは阿野全成ゆかりのお寺として有名です。源頼朝の異母弟で、義経の兄・今若丸、後の阿野全成は頼朝挙兵の傘下に加わり、その功績により駿河国阿野庄(沼津市今沢から富士市吉原にかけての範囲)を賜ります。しかし1203年、謀反の疑いをかけられ、反北条の兵を挙げましたが、破れ捕らえられて常陸国に流され殺されました。その子の時元もまた挙兵しますが、志空しく愛鷹山中で滅ぼされます。大泉寺は阿野氏の館跡で、全成・時元父子の墓(市指定史跡)があり、首掛け松や銀杏観音の伝説が残っています。



ここにキャプションが入ります。



ここにキャプションが入ります。



ここにキャプションが入ります。

北条早雲が築城した旗揚げの城。(この文章はダミーです)

原・浮島 ぐるりMAP あ-A 井出丸山古墳

愛鷹山の南、井出古墳群と石川古墳群との間に広がる尾根の先、標高42mのところに「丸山古墳」があります。平成4年に発掘調査を行なった際には、一部墳丘が壊れていましたが、横穴式石室をもった円墳であることがわかりました。直径15mの円墳で、石室は南に開口、全長6m、幅1m、高さ1mの無袖式で、床には礫が敷かれていました。石室の奥と手前の二カ所に掘り起こされた跡が確認され、一部の副葬品は失われていましたが、石室からは副葬品として、須恵器、耳環、切子玉、管玉、ガラス玉、刀、鉄ぞくが発見されました。この古墳は、この地域の有力者の墓であると考えられ、古墳時代後期(6世紀後半、今から約1400年前)に造られたと推定されています。

原・浮島 ぐるりMAP あ-A 井出丸山遺跡

浮島地区には数多くの遺跡が残されていますが、中でも日本最古級と言われる「井出丸山遺跡」は約38,000年前から40,000年前の旧石器時代の遺構であり、「浮島の宝」として、他の地区にはない貴重な史跡です。井出丸山遺跡は、もともと弥生時代後期から古墳時代にかけての集落遺跡と考えられていました。しかし発掘を進めていくと、遺跡からは旧石器時代の石器などもたくさん発見されました。



ここにキャプションが入ります。



ここにキャプションが入ります。

原・浮島の花

沼津市商工会は、平成20年4月に原町商工会と、駿河湾を挟んだ戸田村商工会が合併し発足しました。(ダミー)



キャプション



キャプション



キャプション



キャプション



キャプション



キャプション

原・浮島の鳥

沼津市商工会は、平成20年4月に原町商工会と、駿河湾を挟んだ戸田村商工会が合併し発足しました。(ダミー)



キャプション



キャプション



キャプション



キャプション



キャプション



キャプション

原・浮島に遺る名刹と名園

原・浮島 ぐるりMAP あ-A たいしょうえん 帯笑園

原の素封家・植松家が江戸時代後半から昭和初期まで代々伝えた庭園。シーボルトをして「今迄日本に見たもののなかにて最も美しく」と言わしめた名庭。珍しい植物の陳列と当時としては希少な温室を備える植物園で、茶室からは庭と富士山の眺めを楽しめました。伊藤博文をはじめ大勢の大名や公家、文人墨客が訪れ、平成24年には国の登録文化財。現在は観覧することが出来ません。



キャプションが入ります。



キャプションが入ります。

原・浮島 ぐるりMAP あ-A 長興寺

臨済宗妙心寺派。室町時代、友獄和尚が行脚中、原の浜の海の響きに感応道交し一堂宇を建立したものと伝えられています。一時は火事や高潮で荒廃しますが、白隠禅師の道友・大義和尚によって再建され、全国各地から集まってくる修行者たちの宿坊として使われました。「駿河の金毘羅さん」の愛称で親しまれ、祭典には赤ちゃんの健康と無病を願う「赤ちゃん泣き相撲」が奉納されます。



キャプションが入ります。

原・浮島 ぐるりMAP あ-A 清梵寺

臨済宗妙心寺派。旅の途中で亡くなった得萬長者を弔うお寺で、尼となった妻が休んだ網元の網に長者の朝夕拝んだ地藏菩薩がかかったことから、力を含ませお堂を建て安置しました。原のお地藏さんとして広く知られ、本道正面には白隠禅師筆の「額王閣」の扁額、本堂内には山阿弥鉄舟の「額王殿」の扁額があります。年一回7月の地藏尊祭には白隠禅師の「地獄極楽変相図」が開帳されます。



キャプションが入ります。

原・浮島 ぐるりMAP あ-A 徳源寺

臨済宗妙心寺派。源頼朝が富士の巻狩りの際に陣屋をおいたことから始まりました。境内には「頼朝お手植えの松3代目」とされる松があり、庭には植松家の「帯笑園」の遺構が移されています。白隠禅師は14歳の頃、ここで古典の素読、読み書きを習い、三ヶ月で「句双紙」を暗記しました。この頃から出家への思いが高まりました。子供の無事成長を願い名を書いた幟を立てる子安地藏大祭は五月。

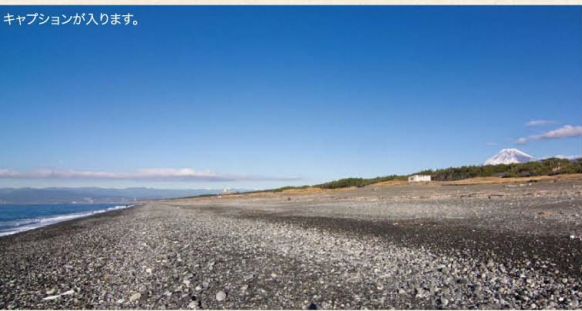


キャプションが入ります。

原・浮島 ぐるりMAP あ-A 原の海岸線

沼津市商工会は、平成20年4月に原町商工会と、駿河湾を挟んだ戸田村商工会が合併し発足しました。戸田地域との連携は今後も重要な課題のひとつで、沼津市商工会としての緻密な情報供給や多彩に広がる人的ネットワークなどを生かして、原・浮島・戸田のそれぞれを有機的に結びつけることで、各地の個性や特徴を最大限に活用した総合的な未来展望を育んでいきたいと考えています。(この文章はダミーです。)

キャプションが入ります。



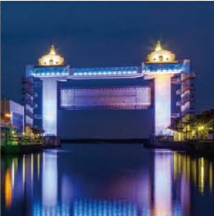
キャプションが入ります。

沼津港

戸田地域との連携は今後も重要な課題のひとつで、沼津市商工会としての緻密な情報供給や多彩に広がる人的ネットワークなどを生かして、各地の個性や特徴を最大限に活用した総合的な未来展望を育んでいきたいと考えています。(この文章はダミーです。)



キャプションが入ります。



キャプションが入ります。

戸田地域との連携

沼津市商工会は、平成20年4月に原町商工会と、駿河湾を挟んだ戸田村商工会が合併し発足しました。戸田地域との連携は今後も重要な課題のひとつで、沼津市商工会としての緻密な情報供給や多彩に広がる人的ネットワークなどを生かして、原・浮島・戸田のそれぞれを有機的に結びつけることで、各地の個性や特徴を最大限に活用した総合的な未来展望を育んでいきたいと考えています。



キャプションが入ります。



キャプションが入ります。